

令和4年度 小平市立小平第十一小学校 学校評価計画表

学校教育目標	気品と気概のある子 ○かしこい子 自ら学び、考えて行動し、責任をもつ子 ○つよい子 めあてを決めて最後までやりぬく子 ○やさしい子 友達と仲良く協力し合う子
---------------	---

目指す学校像(ビジョン)	
【目指す学校像】	子どもを中心に、子どもが成果を出せる教育の精神を念頭に、「切磋琢磨し 成長を実感できる学校」「豊かな学び 十一小」「土台作り」
【目指す児童・生徒像】	自ら学び、考えて行動し責任をもつ子[思考・判断・表現力] めあてを決めて最後までやりぬく子[体力・調整力・粘り強さ] 友だちと仲良く協力し合う子[コミュニケーション力]
【目指す教員像】	すべての教職員が児童の育成に自覚と責任をもち一人一人を大切に目をかけ、声をかけ、手間をかける。切磋琢磨、授業力・指導力の向上に努め資質を高める教師を目指す。

前年度までの学校経営上の成果と課題	
【成果】コロナ禍の中でコロナ対策を取りながら学校の経営方針を実現させる方法を模索してきたが、その中でも健全育成、体力の向上、特色ある学校づくりでは教職員・保護者・児童によるアンケートで高い評価が見られた。 【課題】児童の基礎学力の定着に課題が見られるので、東京ベーシックドリルの活用を進め、放課後補充教室やサマースクール等の取組を通して前学年の内容を7割以上定着するように指導を行う。 ・業務改善、働き方改革では目標に対する具体的な手立てや進捗状況の把握に課題があったので、プランニングシートや分掌引継ぎ文書の活用を通してタイムマネジメント意識を教職員に持たせるようにしていく。 ・新学習指導要領の理解と確実な実施が全教職員間で行えるよう、「学びを深める子の育成～全員が学びの主役になる対話的な学習を通して～」を研究テーマに設定し、学力向上につなげていく。	

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標	成果指標
学力向上	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。	ユニバーサルデザインの視点の授業を行う。 学習規律を徹底し、基礎・基本の定着を図る。	①授業の開始時刻・終了時刻を守る。 ②授業の始めと終わりのあいさつを確実に行う。 ③「はい」「立つ」「です」のルールを徹底する。 ④東京ベーシックドリル診断シートを毎学期行い集計し支援に生かす。 ⑤放課後補充教室やサマースクールを実施し、児童の学力の向上を図る。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 診断シートの正当率90%以上(2～6年) 3 診断シートの正当率80%以上90%未満(2～6年) 2 診断シートの正当率70%以上80%未満(2～6年) 1 診断シートの正当率70%未満(2～6年)
		「学びを深める子」の育成に向けて全校で取り組みをすすめる。	①年間6回以上、教員同士が互いに授業を見合う機会をもち、授業力を高める。 ②教科担任制を進め、教科ごとの指導を充実させる。 ③教科ごとに児童アンケートを年2回実施し、結果を分析することで授業改善につなげる。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童へのアンケート AとBが80%以上 3 児童へのアンケート AとBが70～79% 2 児童へのアンケート AとBが60～69% 1 児童へのアンケート AとBが60%未満
健全育成	思いやりのある児童の育成を図る。	自らすすんであいさつができる児童を育てる。	①年3回のあいさつ運動、アンケートの実施などから児童が工夫し取り組む。 ②毎朝、教室や玄関で児童を迎え、教職員からすすんで何れも笑顔であいさつをする。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童の自己評価で、肯定評価80%以上 3 児童の自己評価で、肯定評価70%以上、80%未満 2 児童の自己評価で、肯定評価60%以上、70%未満 1 児童の自己評価で、肯定評価60%未満
		いじめゼロの学校をつくる。	①いじめ見逃しゼロに向けて児童へのアンケート調査を年3回以上実施し、生かす。 ②週1回、生活指導連絡会を開催する。 ③月1回、いじめ対策委員会を開催する。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童へのアンケート AとBが80%以上 3 児童へのアンケート AとBが70～79% 2 児童へのアンケート AとBが60～69% 1 児童へのアンケート AとBが60%未満
体力の向上	健やかな体を育成する。	児童が主体的に運動に取り組み、お互いを認め合い、高め合う中で体力向上を図る。	①体力向上旬間を設け、運動の日常化を目指す。 ②たて割り班を活用した体力向上の機会を設ける。 ③児童の興味関心を高める授業の工夫を行う。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童へのアンケート AとBが80%以上 3 児童へのアンケート AとBが70～79% 2 児童へのアンケート AとBが60～69% 1 児童へのアンケート AとBが60%未満
		食育を推進し、食生活の改善を図り、給食指導を充実させる。	①学期1回、給食OJTを実施し、指導の方向性を統一化する。 ②全ての給食実施日において「給食チェックシート」を全学級で実施する。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 教員へのアンケート AとBが90%以上 3 教員へのアンケート AとBが80～89% 2 教員へのアンケート AとBが70～79% 1 教員へのアンケート AとBが70%未満
特色ある学校づくり	地域と連携した教育活動の充実を図る。	ICT タブレットを活用した学習を進める。	①導入時に共通したスタートガイドスを行い操作に慣れるようにする。 ②すべての学年、学級において、発達段階に応じた活用内容を計画し、授業を工夫する。共有を図る。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童へのアンケート AとBが80%以上 3 児童へのアンケート AとBが70～79% 2 児童へのアンケート AとBが60～69% 1 児童へのアンケート AとBが60%未満
		コミュニティ・スクールに関連した取組を推進し、軌道に乗せる。	コミュニティ・スクールによる学校経営を組織的、計画的に運営し、効果的に学校支援ボランティアを活用できるように1月に1回、学校運営や必要な支援に関する協議する。	4 学年の実施日の年間合計10回以上 3 学年の実施日の年間合計7～9回 2 学年の実施日の年間合計4～6回 1 学年の実施日の年間合計3回以下	4 保護者へのアンケート AとBが80%以上 3 保護者へのアンケート AとBが70～79% 2 保護者へのアンケート AとBが60～69% 1 保護者へのアンケート AとBが60%未満
業務改善・働き方	時間対効果を意識し校務改善を図り、ライフ・ワークバランスに対する意識改革を推進する。	勤務時間の管理を徹底する。	①適当の在校時間が60時間を超えない。 ②月一回、学年のノー残業デーの設定をする。	4 教員へのアンケート AとBが90%以上 3 教員へのアンケート AとBが80～89% 2 教員へのアンケート AとBが70～79% 1 教員へのアンケート AとBが70%未満	4 教員の90%以上が達成 3 教員の80～89%が達成 2 教員の70～79%が達成 1 教員の達成が70%未満
		校務改善、働き方改革について個々の教職員の具体的な取組を明確化する。	①情報共有方法の工夫、業務手順の見直し、様式の見直しなどについて自己申告書に具体的な取組を示し、実践する。 ②プランニングシート、分掌引継ぎメモを活用し、計画的に業務の進行管理を行う。	4 教員へのアンケート AとBが90%以上 3 教員へのアンケート AとBが80～89% 2 教員へのアンケート AとBが70～79% 1 教員へのアンケート AとBが70%未満	4 教員の90%以上が達成 3 教員の80～89%が達成 2 教員の70～79%が達成 1 教員の達成が70%未満